

令和6年度第2回河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

日 時 令和7年3月25日（火）午後7時00分～8時45分

場 所 河内長野市役所301会議室

出席者 車谷委員長、宝楽副委員長、佐藤委員、宮崎委員、宮地委員、飯田委員、
おぐし委員、吉年委員、尾花委員、池内委員
（河内長野市）小川部長、伊藤課長、福本補佐、鈴木係長、玉置
（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所）梅野様
（市文化振興財団）前田館長、吉富次長、辻野マネジャー、相輪マネジャー

開 会

（小川生涯学習部長）

本日は、年度末のお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。

これまで議論いただいたアンケート結果や文化振興財団の実績報告もありますので、一人でも多くの皆様にご出席いただきたく、このような時間での開催となり、申し訳ありません。

私の挨拶を兼ねて、組織機構改革について文化振興に関わる部分に絞って説明させていただきます。昨年4月に文化課を作った矢先ですが、1年で機構改革となりました。8月に就任した西野市長のもと、稼ぐ力や成長する力を高めて消滅可能性自治体からの脱却を目指して、営業部長を公募したり、職員兼業推進条例を上程したりする中で、縦割り行政を打破すべく、局長が権限を持って引っ張っていくような組織づくりを行いました。

文化振興施策は、成長戦略局、成長戦略部、まちのソフト戦略室、文化・スポーツ活性課に位置付けられています。今後の文化振興施策は、文化ツーリズムという観点も含めて、より多くの市民や団体を巻き込み、また多くのお客様を巻き込み発信していくこと。さらに、文化会館では大規模改修に多大な予算が必要となります。教育委員会の範疇ではおさまらないので、市長のもと文化振興策を強力に進めていくため、このような形になりました。

一方で、教育委員会では、スポーツ、文化国際を成長戦略局に移したことにより、本来の教育行政である学校教育や社会教育に集中したいと考えています。ただし、関係がないのではなく、児童生徒たちへのアウトリーチ等や体験活動などで関わり、文化振興と教育の連携を深めていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

（車谷委員長）

傍聴に関して必要な事項を定めさせていただきたいと思います。当委員会の会議を公開することにご異議ございませんでしょうか。異議なしと認めてどうか、公開いたします。

第3期文化振興計画策定に係る市民アンケートの結果について

(事務局)

別紙資料のとおり説明。

(車谷委員長)

断片的にでも、直感的に感じられたことでも構いませんので、時間的に限られたたくさん意見を出していただいて、思いをお伝えいただけたらなというふうに思います。

(宮崎委員)

市の文化事業の認知度について。5つの事業に「参加したことがある」が少ないというのが率直な感想です。「知っているけど参加したことがない」も、一定数はいるが、「知らない」ほうが多数になっていることが少し気になりました。

コンサートや演劇、展覧会などに参加していない人たちの理由には納得しますが、「興味のある分野の講演がない」という回答をどう考えるか。年代によって興味があるものや参加したいものはあるため、エンタメ的な事業を増やすことで解決するのかもしれませんが、公共事業としてどうか、どう解釈するのかよいのかと思います。

全体的な所感としては、公演を見に行く・参加するような受ける側が多い印象で、創造する、プロではなくてアマチュアや市民も含めて、主体的に表現をする人たちの視点、あまり入っていなかったと思います。

(尾花委員)

市内で音楽教室を営んでおり、文化活動に参加していただくような場を作っています。また、WA音PROJECTといい、ステージに立ったことのない方などに、ご自身が文化活動をする側というか表現する側になっていただくような活動を行っています。

以前、マイタウンオペラを拝見しました。ご自身で活動をされている方は、プロの公演を観たいと感ずることがあると思います。ただ、アンケートを見ると、働き出すと習い事などで文化活動に関わることが難しいと感じます。それでも頑張って活動されている方は、子どものころから音楽教室などに通っていたのではないのでしょうか。例えば、ミュージカルスクール出身の方は色々な公演を気にかけているように思います。

興味のある分野がないと回答している方は、文化活動に関わらずに暮らしていて情報が少なく、テレビなどで見るようなジャンルにしか興味が持てないのではないのでしょうか。

小さい頃からただ観るだけではなく、自分が主体になってステージに立ったり、地域の中で体験できたりすることが必要ではないのでしょうか。例えば、保護者は夏休みなどに子どもを連れて行く場所を探すことが多い。大阪市内には様々なエンターテインメントが溢れていますが、河内長野市では、主体的に体験できる場を探し求めている方は多いと思います。そ

のような環境をつくっていくことで、今後につながるのではないかと感じました。

(池内委員)

学校現場では、子どもたちに文化芸術に触れる環境をどれだけ提供できるか。広く視野を持ち、日々アンテナをはって、子どもたちに良いものを提供できるようにしていきたいと思っています。限られた時間のなかですが、アウトリーチなどを活用していきたい。

(吉年委員)

アンケートを配布した2000人のうち22%の人が最後まで諦めずに様々な意見を答えてくれたことに、河内長野らしさを感じ、すごく熱いと思いました。アンケートを一過性で終わらせないためにはどうしたらよいのかということも、22%の回答者が答えを導き出してくれるのではないかと思います。市民の声を直接聞いたことがとても大事だと思い、この22%の回答者がおられれば、第3期計画も進めていけると感じました。

文化芸術に触れる場が市内にないため市外に行くという回答があったが、文化芸術と結びついてほしい分野に観光があるため、目的のずれのようなものがあるなとも思いました。

河内長野市民はイベント好きが多く、私自身も駅前でイベントを企画していますが、ターゲットを絞ると、熱い気持ちを持つ、温かい方が多く集まってくれて、能動性がある方が多いという印象。一方で、イベントに来る人は同じ人が多いということもあります。

各施設に、ターゲットはあると思いますが、認知度向上などの課題がある中で、施設ありきなのか施策ありきなのか、アンケート結果を読むと、施設ありきが強く出ていると感じます。ゴールから見据えると、あるべき姿が見えるのではないか。方向が定まれば、今後どうしていくべきかも導き出せるのではないか。考えを深めていくには、22%の回答者の力が助けとなってくれると思います。

(飯田委員)

おそらく同じ人がラブリールホールにも行って、キックスにも行って、同じ人が色々なイベントに参加しているのではないかと思います。

文化祭では、子どもたちにお花を教える中で、身近なお庭に咲いている花でもペットボトルに入れて飾ることができるなど文化を身近に感じてもらおうという思いで行いました。しかし、昨年の文化祭では、日本舞踊の人气が高まっているように感じ、お化粧してスポットライトをあびて特別な場所にいきたい気持ちをもつ子どもが増えたように思います。どちらが良いではないが、身近に感じてもらうのが難しいなと思い、考えさせられました。

(おぐし委員)

私は、Yahooニュースで情報発信をしているため、イベント情報を主に何から得てい

るのが気になりました。移住してきた身で、他の自治体の広報など見てきているが、河内長野市の広報は綺麗で読みやすいため、多くの人を読んでいて、アンケート結果にも反映されているというのが分かり、市として広報を頑張っていると思います。

私は、3年半ほど前から河内長野や富田林の記事を毎日書いていますが、情報を探すときにすごく苦労しています。イベント情報はネットに少なく、直前になってネットで見つけても、予定があわず行けない場合があります。ラブリーホールやキックスにポスターが貼られているとはいえ、多くの市民も同じように感じているのではないのでしょうか。開催日までには余裕をもってSNSなどで発信をすることが大切ではないかと思っています。

(宮地委員)

観光と文化芸術を結び付けていくことは、文化庁で言われているものの、新しいと感じています。ラブリーホールでは色々な体験型の事業を行っていますが、コストの面と参加できる人数が限られてくるということが課題です。また、外になかなか見えず、知る人は限られているようです。例えば、スポーツだと、マラソン大会はかなり多くの方が知っていますが、ラブリーホールでは大ホールが満席になろうとも、知っている人は限られます。どのように文化芸術を外に広げるかを探らなければならず、観光との結びつきもどうしたらよいのかということではあるが、発想を変えていく必要があるのではないのでしょうか。

(佐藤委員)

文化芸術というのは改めて広いなと感じています。

私が住んでいる地域には、素敵なホールがあり様々な催しが行われていますが、仕事をしているとなかなか参加できません。自分が地域のイベントに参加しているかと考えた時、コンサートなどホールでのイベントはチラシ等で見るものの、実際の参加は難しいです。

しかし、地域の食をテーマにしたイベントが思い浮かび、地域を歩きまわり伝統や食を通して知ることができるというような体験型のイベントには参加しているなと思います。

(宝楽副委員長)

前回の計画策定に関わった私としては、当時の文化に関する課題の1番目が「日常的な文化活動への参加の促進」だったため、今回のアンケート結果で分析すべき点と感じました。

前回の計画では、日常的な文化活動への参加の促進の中をさらに細分化して、「本物に身近に触れられる機会を」「市民の行動を知るから参加」「他分野と領域での連携」というような3つの項目がありました。そのなかで「身近に触れる機会を」で比較をすると、「文化活動を知る機会が増えたか」という項目は、10年前のアンケートでは25.2%でしたが、今回は18.9%に下がりました。一方で、興味深いと思った点は、「催事などの実行委員会に参加する機会が増えたか」という項目が前回5.2%で、今回は1.8%と下がっています。

このように、参加した人がどれくらい増えたのかという点を分析してはどうでしょうか。

私は、健康まちづくりの活動を行っています。例えば、健康づくりの分野だと、健康に関心度のある人は3割で、健康に関心度が高く、どんどん健康になっていく。一方で、残りの7割の人たちは、健康に関心度が低いため情報が届かないゆえに不健康状態が高まる。

今後は、無関心層にどうアプローチするか。おそらく文化でも同じ現象が起きており、前回のアンケート結果と今回を比較すると、例えば、「文化を知る機会」がほとんど増加していないのであれば、この10年間の努力のどこを評価するのか分析したほうが良い。

そこで、自由記述をテキスト分析したところ、文化に関心度が高い満足層は広報や情報発信に満足していると答えており、身近で参加可能なイベント施設の利便性に満足度が高いと答えています。また、歴史や伝統文化への評価も高かったと思います。ラブリーホール中心に各施設の活動が定着しているような反応が出ています。ところが、不満足層は、逆に広報情報発信に強い不満を示しています。では、満足層と不満足層のどちらを重視するのか。

今後、計画の中で、どこを評価していくのかを考える必要があります。80年代90年代、まだ知られてない様々な文化の認知度を上げようという時代があり、2000年代から2020年代にかけては、YouTubeやSNSが台頭する中で、文化芸術に触れる機会が増えました。2020年代以降、文化に触れる機会をどうとらえていくのかを議論したい。YouTubeでも映像は見ることはできますが、リアルな文化体験はできません。自由回答を丁寧に扱いながら、計画でどのように評価をしていくかを検討したいと思います。

今後、文化と結びつきがよくなれば良いと思う分野は、前回のアンケートでは、1番が高齢福祉で、2番が生涯学習でした。ところが、今回は1番が観光振興で、2番が都市整備となっています。市の人口が減少フェーズに入ったため、おそらく高齢者のニーズが変わってきたのではないのでしょうか。前回のアンケートでは、施設整備が大きなキーワードだったと思いますが、今回のアンケートでは、施設運営のクオリティ面や質での分析が必要です。

今回のアンケートで、観光振興や都市整備が選ばれていることを踏まえて、どこを高く評価し、どこを課題ととらえるかということに議論がいると感じました。

また、「生活の中で文化的なことを感じられたらよいと思うのはどんな場面ですか」という質問の中で、趣味余暇が1位で、次に名勝・社寺とか観光スポットが上にきたという意味では、ここ10年間、文化財を活用していこうという点で市が頑張ったところが評価されているので、そういうポテンシャルを活かしていく必要があると思います。

(車谷委員長)

全員からご意見を頂戴しました。前回10年前の取り組みと比較しながら、時代の流れありますが、どこを評価するのか論議する必要があるかなと思います。

新たなものを作っていく上で、そのあたりが一番、大事だと思いますので、これを記録しておいて、次回に。今日は意見を出す形にしておきたいと思います。

案件 2

河内長野市文化振興財団における事業実績報告（令和 7 年 2 月末まで）

及び第 2 期文化振興計画に対する財団から見た課題

（文化振興財団）

別紙資料のとおり説明。

（車谷委員長）

大変わかりやすい資料を作成いただきました。ご意見、ご質問を受けたいと思います。

（宮崎委員）

今、官民ホールとも改修が大変な状況です。築 20 年 30 年となると、維持が大変ではと思います。ラブリーホールに限らず近隣ホールも含めて閉鎖などの情報はありますか。

地方では閉鎖するホールが出てくるだろうと思います。北摂のホールでは大規模改修があります。南河内ではどうかと思いました。

（事務局）

ホールを閉鎖した話は聞いておりませんが、富田林のすばるホールは、市役所の一部機能が仮移転しています。

（車谷委員長）

先見通せないが、どこの市も大変な状況と思います。

（事務局）

後日、追加でご意見ありましたらメールでお願いします。

令和 7 年度は、新体制で計画策定を進めていく予定です。委員報酬がありませんが、会議で集まっていただく代わりに、チャットツール等のアプリをご提案させていただきます。

後日、アプリの概要などメールで提案させていただきます。

（伊藤課長）

一年間、文化課で担当してきましたが、4 月からは文化・スポーツ活性課で進めていきます。文化振興計画があることによって、市民の文化が豊かになっていくと思います。これからの引き続きご尽力いただきますようお願いします。